



Vol. 21, No. 3, May 2011

PAニュース  
発行：日本生理人類学会  
www.jspa.net

もくじ	
▽大会案内	1
▽研究部会レポート	3
▽研究奨励発表会レポート	3
▽PANewsより	4
▽今後の学会関連行事	5
▽from Editors	5

**【大会案内】**  
**第 64 回大会（2011 年福岡）の**  
**お知らせ ー第 3 報ー**

大会長 柄原 裕  
 (九州大学大学院)

第 64 回大会を下記の予定で開催いたします。多くの皆さまのご参加を心よりお待ちしております。最新情報は、学会ホームページ第 64 回大会案内をご覧ください。(http://www.jspa.net/)

記

- 1) 会期：2011 年 6 月 11 日（土）・12 日（日）
- 2) 会場：九州大学大橋キャンパス  
 「多次元デザイン実験棟」  
 〒815-8540 福岡市南区塩原 4-9-1  
 西鉄大牟田線「大橋駅」東口下車，徒歩 5 分  
 ＊九州大学へのアクセス URL  
<http://www.design.kyushu-u.ac.jp/kyushu-u/access>
- 3) プログラム概要（予定）：
  - 理事会・若手の会 6 月 10 日（金）
  - 大会 1 日目 6 月 11 日（土）
    - 8:00～ 受付開始
    - 8:55～ 開会の挨拶
    - 9:00～10:00 一般口演 10 件
      - ・発表時間 8 分，質疑応答 4 分

- 11:15～12:00 特別講演  
 Human heat adaptation: an evaluation of the historical and contemporary evidence for ethnic differences  
 Prof. Nigel Taylor  
 (University of Wollongong, Australia)
- 12:00～13:20 昼休み  
 (12:00～13:00) 評議委員会
- 13:20～14:20 ポスター発表 15 件
  - ・サイズ A0 版（横 84.1×縦 118.9 cm）
  - ・ポスターの前で 3 分間の発表
- 14:20～15:20 一般口演 5 件
- 15:30～17:30 シンポジウム I  
 「環境及び遺伝の要因と生理的多型性との関係性」  
 (司会：安河内 朗・九州大学)  
 環境要因からみた生理的多型性  
 岩永光一（千葉大学）  
 環境要因と遺伝的多型と多様な表現型との関係  
 太田博樹（北里大学）  
 環境要因と遺伝子発現と多様な表現型との関係  
 颯田葉子（総合研究大学院大学）
- 17:30～18:10 施設見学  
 (環境適応研究実験施設, 居住空間実験住宅)  
<http://www.design.kyushu-u.ac.jp/DHS/facility.htm>
- 18:10～19:30 懇親会  
 場所：大学食堂（大橋キャンパス厚生施設棟）
- 大会 2 日目 6 月 12 日（日）
  - 8:30～ 受付開始

9:00~10:00 一般口演 10 件

11:15~12:15 総会

12:15~13:15 昼休み

13:15~14:15 ポスター発表 16 件

14:15~16:15 シンポジウム II

「暑熱環境への適応」

(司会: 栃原 裕・九州大学)

Thermoregulatory responses of Malaysian and Japanese males during leg immersion in hot water

Titis Wijayanto (九州大学)

暑熱環境下運動時における熱帯地住人の熱放散反応と体液量変化

若林 斉 (九州大学)

Decay of heat acclimatization in tropical indigenes residing in Japan

Joo-Young Lee (九州大学)

タイ人の汗腺機能における老若男女特性

井上芳光 (大阪国際大学)

やや暑い環境における暑熱環境非適応者(暑がり)の生理・心理反応

大中忠勝 (福岡女子大学)

16:15~17:15 一般口演 4 件

4) 発表申し込みは、締め切りました。

5) 大会参加費・懇親会費

①大会参加費

・5月10日(火)以前:

正会員 6,000 円, 非会員 9,000 円

学生(正会員/学生会員) 2,000 円

学生(非会員) 3,000 円

・5月11日(水)以後:

正会員 7,000 円, 非会員 9,000 円

学生(正会員/学生会員) 3,000 円

学生(非会員) 4,000 円

②懇親会費:

正会員 4,000 円, 非会員 5,000 円,

学生(正会員/学生会員/非会員) 2,000 円

6) 振込先

(郵便振替):

日本生理人類学会第64回大会事務局

01720-7-70561

(他の金融機関から振込の場合):

店名: 一七九店(イチナナキュウ店)

預金種目: 当座 口座番号: 0070561

大会事務局(問合せ先):

〒815-8540 福岡市南区塩原 4-9-1

九州大学大学院芸術工学研究院 栃原研究室

日本生理人類学会第64回大会事務局

E-mail: jspa64@design.kyushu-u.ac.jp

Tel/Fax: 092 - 553 - 4522

## 第65回大会(2011年大阪)のお知らせ ー第1報ー

大会長 小谷賢太郎

(関西大学)

第65回大会は、下記の会期と会場で開催いたします。

本大会では例年通り特別講演、一般公演、ポスターセッションと合わせて、今回初めて人類働態学会との共同シンポジウムを企画いたしました。

「高齢者の運動機能と日常生活(仮)」をテーマに両学会からの研究者の方に登壇いただこうと考えております。ほかにも大会プログラムの企画を現在検討しているところです。詳細につきましては、学会ホームページなどで随時お知らせする予定です。たくさんの会員の皆様と関西大学のキャンパスでお目にかかれることを心より楽しみにしております。ぜひ、ふるってご参加くださいますようお願い申し上げます。

記

会期: 2011年11月26日(土)・27日(日)

会場: 関西大学100周年記念会館

(関西大学千里山キャンパス, 大阪府吹田市山手町3丁目3番35号)

## 【研究部会レポート】 システムバイオエンジニアリング 研究部会

工藤 奨  
(芝浦工業大学)

システムバイオエンジニアリング研究部会を2011年3月8日(火)に芝浦工業大学先端工学研究機構バイオトランスポート研究センターとの共催で開催しました。私がセンター長を務めさせていただいておりますバイオトランスポート研究センターは、平成20年度文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業の選定を受け、平成20年9月より研究を開始し精力的に研究に取り組んできました。平成20年度～平成24年度までの5年間のプロジェクトで、血液循環系の分子認識機構を用いた組織・細胞レベル(マイクロ・ナノレベル)での物質輸送機構を解明することで、血管病変発生メカニズムの解明、機能恒常性の解明、さらには再生組織工学、ドラッグデリバリーシステム、バイオチップへの臨床応用を目的として研究をおこなっております。組織としては、慶應義塾大学、東京工科大学、埼玉医科大学、杏林大学、防衛大学校、早稲田大学の学外のメンバーを含め12名の研究者で構成されています。

今回は、芝浦工業大学バイオトランスポートセンター所属の先生方に以下の研究成果を講演していただきました。

1. 低酸素に対する生体適応反応を利用した再生組織への *in vivo* 血管誘導  
柴田政廣 (芝浦工業大学・生命科学科)
2. ナノ材料を利用するバイオチップ  
六車仁志 (芝浦工業大学・電子工学科)
3. 脂質膜固定化手法の拡張とバイオセンサー応用  
松村一成 (芝浦工業大学・材料工学科)
4. 血中タンパク質に特異的に結合する蛍光プローブの開発  
中村朝夫 (芝浦工業大学・共通学群)
5. 薬物探査の可視化を目指したプロテインプローブの開発  
濱崎啓太 (芝浦工業大学・応用化学科)

学問の応用を見据えて研究を進めていくのも一つの研究スタイルであります。本部会は工学色が強い研究部会となっておりますが、ヒトを理解する上では様々な角度から見ていくことが重要かと思えます。少し毛色が違う研究部会となっておりますが、今後も会員の皆さま方に積極的に参加していただければ幸いです。

## 【研究奨励発表会レポート】 日本生理人類学会第6回研究奨励 発表会報告

樋口重和  
(九州大学大学院)

昨年度の1月22日(土)に九州大学(大橋キャンパス)で第6回研究奨励発表会を開催しました。今年は開催時期が卒業論文や修士論文の締め切りの時期と重なった関係で、発表数が12演題と若干少なめでした。しかし、ひとつひとつの発表は、非常に完成度が高く、生理人類学的にも興味がそそられる内容ばかりでした。約40名の参加者があり、活発なディスカッションも繰り広げられました。今回の発表会で最も印象に残っていることは、質疑の時間に手を挙げる学生さんがたくさんいたことです。よく手が上がるので、私自身も聞きたいことが聞けなかったほどでした。このように学生さんの積極的な姿が見られたことは大きな収穫でした。

当日は、参加者全員の投票によって、すぐれた発表を選出し、優秀賞として表彰しました。以下の2名の発表が優秀発表賞に選ばれました。田中美寿穂さん(福岡女子大学)「日常生活で受ける光とメラトニン分泌挙動の関係ー日本とスウェーデンの比較ー」、虎本紗代さん(九州大学)「出生地域が皮膚温度感受性に及ぼす影響」。おめでとうございます。

また、当日は企業の最前線で研究を行っている方から話題提供をしてもらいました。これから進路を決定しなければならない学生さんにとって、企業の研究者について知ることのできるいい機会

になったと思います。発表会修了後は、キャンパス内で懇親会を開きました。発表の緊張から解放され、研究だけではなく色々な話題が夜遅くまで尽きることはありませんでした。本年度も開催する予定です。多くの方々の参加をお待ちしています。

## 【PANews より】

### PANews の舞台裏

会報担当 岡田 明 (大阪市立大学大学院)  
福島修一郎 (大阪大学大学院)

現在の体制でPANewsの編集を始めてから2年が経とうとしています。記事を絶やさずに2ヵ月ごとの発行を維持するのは悩ましいところで、20年の歴史の重みを感じます。本誌は投稿で成り立っていますので、あくまでも表方は会員の皆さまですが、裏方として編集に携わってきた先生方には頭が下がります。今号では編集体制の20年間の変遷を振り返ってみたいと思います。

創刊当時(1991年)の編集部は九州芸術工科大学(現:九州大学芸術工学部, 大学院芸術工学府)におかれまして、安河内朗先生をはじめとする編集部メンバーの奮闘ぶりの一端は前々号に掲載した「編集部だより」でご紹介しました。Vol.3 No.5からVol.6 No.1までの約3年間は、中根芳一委員長, 土井正副委員長のもと大阪市立大学で編集委員会が編成されました。

1996年には、前号でご紹介したとおり存続の危機を乗り越えた新生PANewsが誕生します。この時の編集事務を担当していたのは実践女子大学の山崎和彦先生でした。Vol.6 No.2&3のなかで『ニューズレターというものは、掲載された情報が新鮮かつ有用であることを第一とし、また本誌におきましては「生理人類学」のほどよい香りがするのがよいのでありましょう』と記されており、その後の誌面は行事の開催案内が多くの割合を占めるようになりました。この時期は広報担当理事のもとに編集委員会が組織されており、Vol.7 No.4からは梅村守先生(東京理科大学), Vol.9 No.4からは板倉直明先生(電気通信大学)と片岡洵子

先生(日本女子体育大学)が編集責任者を務めました(所属は就任時)。

Vol.12(2002年)からはPANewsのレイアウトが変わりました。以下に歴代のロゴを示します。初代から2代目へは“N”追加されるという大きな変化がありましたが、新生PANewsで採用された3代目も“PAN”をかたどったロゴで、マイナーチェンジといえるでしょう。このロゴはその後6年間の長期にわたり使われました。Vol.12(編集担当:大阪市立大学 岡田明 理事)からは“PANews”をかたどった4代目のロゴが採用されました。この変更には後日談があります。PANewsはISSNコードを取得しており、国会図書館で収集されています。変更前のロゴ“PAN”が誌名としても登録されていたため、国会図書館の担当者から新ロゴ“PANews”の採用は誌名変更と相当すると指摘されてしまったのです。結局、新しいISSNを取り直して現在に至っています。その後、Vol.14(編集担当:京都大学 仲村匡司 理事)で5代目が、Vol.18(編集担当:大阪市立大学 岡田明 理事, 神戸大学 中村晴信 理事)で現行のロゴが採用されました。ロゴ以外にも、もくじが追加されるなどレイアウトが改善されました。

速報性を重視してきたPANewsですが、2ヵ月ごとの発行ではやはり限界があります。Vol.20からは抜粋版を電子媒体で発行しています。今後もさまざまな変遷を遂げると考えられます。

 

Vol.1 (1991年)

Vol.2 (1992年) ~  
Vol.6 No.1 (1996年)



Vol.6 No.2&3 (1996年) ~ Vol.11 (2002年)



Vol.12 (2002年) ~ Vol.13 (2003年)



Vol.14 (2004年) ~ Vol.17 (2007年)

## 【今後の学会関連行事】

### 第17回若手研究者発表会

会期：2011年6月10日(金)  
会場：九州大学大橋キャンパス 4号館 411教室  
連絡先：若林斉 (九州大学)  
waka@design.kyushu-u.ac.jp

### 日本生理人類学会第64回大会

大会長：栃原 裕  
会期：2011年6月11日(土)・12日(日)  
会場：九州大学大橋キャンパス  
「多次元デザイン実験棟」  
大会事務局 (問合せ先)：  
E-mail: jsipa64@design.kyushu-u.ac.jp  
Tel/Fax: 092 - 553 - 4522

### 生理人類士認定試験について

- ・受験申込期間：2011年9月30日(金)～10月11日(火)
  - ・受験申込先：指定校に在学する受験希望者は各指定校責任者へ。  
それ以外の受験希望者は学会事務局へ申し込むこと。
  - ・試験日時  
I期 11月26日(土)：準1級および2級  
時刻は共に13:00～14:00  
11月27日(日)：1級、時刻は未定  
II期 12月3日(土)：準1級および2級  
時刻は共に13:00～14:00  
12月4日(日)：1級、時刻は未定
  - ・試験会場  
準1級・2級：各指定校  
1級：未定(相談による)
- 注)年次大会開催のため二期に分けて実施します。  
各指定校責任者は御希望の日程について事務局までお知らせ下さい。

### 日本生理人類学会第65回大会

大会長：小谷賢太郎  
会期：11月26日(土)・27日(日)  
会場：関西大学100周年記念会館

### 日本生理人類学会第66回大会

大会長：草野洋介  
会期：2012年5月中旬予定  
会場：長崎(場所未定)

### from Editors

**次号(7月末発行)の原稿締切は6月30(木)**

▽東日本大震災で被害に遭われた皆さまに心よりお見舞い申し上げます。また、不幸にして犠牲になられた方々にご関係の皆さまに対し、謹んでお悔やみ申し上げます。未だに終息の目途がたたない現状に、自然の脅威と、科学技術の恩恵の裏にあるリスクを改めて考えさせられています。以下に学会ホームページに掲載された会長のことばを引用させていただきます。

「私たちヒトは *Home sapiens* (叡智人) です。私たちの叡智を結集してこの困難に立ち向かって行こうではありませんか。私たちにはできると思います」

▽今号が現編集事務局での最後の発行となります。2年間のご愛読ありがとうございました。

会報担当理事：岡田 明 (大阪市立大学大学院)  
福島修一郎 (大阪大学大学院)

### PANews 編集事務局：

〒558 - 8585 大阪市住吉区杉本3 - 3 - 138  
大阪市立大学大学院生活科学研究科  
居住環境学講座 岡田明  
e-mail akira.pegasus@nifty.com  
〒560 - 8531 豊中市待兼山町1 - 3  
大阪大学大学院基礎工学研究科  
生体計測学講座 福島修一郎  
e-mail fukushima@me.es.osaka-u.ac.jp